一心不乱に竜の玉入れに挑む

11/15 新和

～しんわ楊貴妃（ようきひ）祭り～

11月15日、「第13回しんわ楊貴妃祭り」が市役所・新和支所周辺で開催され、市内外から約5,000人が訪れました。これは、楊貴妃祭り推進協議会が、竜洞山のふもとで言い伝えられている“楊貴妃伝説”にちなんで毎年行っているもの。イベントでは、楊貴妃太鼓の演奏や農産物の展示・販売などのほか、優勝賞金10万円の“楊貴妃杯竜の玉入れ選手権”を実施。参加した22チームの選手たちは、優勝を目ざし一心不乱になって玉を投げていました。

▲かごを目がけて一生懸命に玉を投げる選手たち

崎津の案内はおまかせください!

11/17 河浦

～地域観光ボランティアガイドＮＰＯ「さいのつ」発足～

年間を通して多くの観光客が訪れる崎津天主堂など、崎津地区の歴史や昔ながらのたたずまいをわかりやすく伝えていこうと11月５日、地域観光ボランティアガイドＮＰＯ「さいのつ」（船津智恵子代表）が発足しました。同17日には、訪れた観光客に“トウヤ”や“カケ”といった崎津特有のまち並みなどを、方言を交えながら親しみを込めて案内。船津代表は「１人でも多くの人に喜んでいただき、崎津の風土や歴史を伝えていけたら」と話していました。

▲ガイドの説明を熱心に聞く観光客

史跡や観光施設などを巡る

11/22 有明

～上津浦（こうつうら）地区ウォークラリー～

11月22日、上津浦グラウンドを発着とする約７㎞のコースを歩く「上津浦地区ウォークラリー」が開催され、市内外から150人が参加しました。これは同地区振興会が、史跡や観光施設などを巡り、同地区の良さを再発見してもらおうと初めて実施。参加者は、同地区振興会が作成した特製マップを頼りに、キリシタン墓碑や巨大タコのモニュメント“ありあけタコ入道”など６カ所のチェックポイントを散策。肌寒い天気の中、秋の上津浦路を楽しみました。

▲チェックポイントの“ありあけタコ入道”でひと休み

おじいちゃん、おばあちゃん、元気で長生きしてね！

11/25 栖本

～栖本保育所園児が梅寿荘を訪問～

11月25日、栖本保育所の園児が養護老人ホーム梅寿荘を訪問し、お遊戯などを披露しました。これは同保育所が、日ごろ子どもたちとふれあう機会が少ない入所者を元気づけようと、毎年実施しているもの。この日は４・５歳の園児13人が、着物やドレスなど色あざやかな衣装に身を包み、音楽にあわせて愛きょうたっぷりに踊りを披露。会場に集まった50人の入所者などは、園児たちのかわいらしさに目を細めながらうれしそうに見入っていました。

▲着物姿で踊りを披露する園児

花の種に思いやりの願いを込めて

11/27 本渡

～人権の花運動～

11月27日、人権の花運動の発表会が楠浦小学校で行われました。これは、花を育てることを通して、生命の尊さや思いやりの心を学ぶことなどを目的に実施され、児童による活動発表や歌の披露が行われたほか、花壇で育てたヒマワリなどの種とメッセージを付けた紙風船200個を、校庭から秋晴れの空に向けて飛ばしました。後日、同校には「種は庭や畑にまいて大切に育てます」という手紙が寄せられ、児童たちは願いが届き大喜びでした。

▲それぞれの願いを込めて紙風船を飛ばす児童たち

海からのごみの正体を探る

11/28 牛深

～大島の漂着ごみ調査～

牛深沖の約４kmにある無人島“大島”で11月28日、海岸の清掃と漂着ごみの調査（牛深ロータリークラブ主催）が行われ、牛深地域の住民80人が参加しました。参加者は、同島の海岸沿いなどを巡回し、約1.5ｔのごみを回収。その後、ペットボトルや金属片など、ごみの種類ごとに分類しデータをまとめました。今回の調査結果は、全国で海や川の環境保全を行う“環境NGO・クリーンアップ全国事務局”に報告され、ごみ問題の啓発に役立てられます。

▲集めたごみを分類する参加者

家庭生ごみを肥料として還元

11/29 五和

～生ごみリサイクル肥料の活用～

「柿の郷（さと）づくり」を目ざしている手野まちづくり振興会が11月29日、同地区内の県道47号線沿いに景観用として植栽している、柿の木の肥料まき作業を実施しました。この肥料は、市バイオマスタウン構想の一環で、昨年６月から五和地区で実施中の“生ごみ分別事業”で収集された生ごみをリサイクルして作られたもの。作業に参加した同振興会の景観デザイナー部員は「生ごみが有効に還元されていることを多くの人に知ってもらいたい」と話していました。

▲柿の根元に肥料をまくようす